

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年6月26日
【事業年度】	第74期（自平成29年4月1日至平成30年3月31日）
【会社名】	株式会社銀座山形屋
【英訳名】	GINZA YAMAGATAYA CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小口 弘明
【本店の所在の場所】	東京都中央区湊二丁目4番1号
【電話番号】	03(6866)0276(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 渡邊 光潤
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区湊二丁目4番1号
【電話番号】	03(6866)0276(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 渡邊 光潤
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第70期	第71期	第72期	第73期	第74期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
売上高 (千円)	4,519,841	4,815,796	5,135,842	5,209,271	5,398,979
経常利益 (千円)	165,127	239,412	290,469	291,361	214,531
親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	132,041	190,176	319,619	207,544	105,616
包括利益 (千円)	280,265	225,278	107,864	248,782	110,712
純資産額 (千円)	2,792,576	3,017,442	3,072,994	3,235,370	3,259,709
総資産額 (千円)	4,466,635	4,795,535	4,824,293	5,069,478	5,398,258
1株当たり純資産額 (円)	1,617.74	1,748.25	1,780.70	1,874.83	1,888.99
1株当たり当期純利益金額 (円)	76.49	110.17	185.20	120.27	61.20
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	62.5	62.9	63.7	63.8	60.4
自己資本利益率 (%)	5.0	6.5	10.5	6.6	3.3
株価収益率 (倍)	19.9	16.1	10.9	14.8	28.3
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	91,231	319,992	280,501	300,501	448,181
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	15,444	24,080	129,979	49,583	170,035
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	8,665	7,471	58,479	92,409	90,239
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	813,981	1,102,423	1,194,464	1,352,972	1,540,879
従業員数 (名)	383	398	408	422	511
〔外、平均バ - トタイム - 〕	〔231〕	〔226〕	〔232〕	〔221〕	〔225〕

(注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 当社は、平成28年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。第70期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第70期	第71期	第72期	第73期	第74期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
売上高 (千円)	258,631	244,185	253,807	275,869	292,757
経常利益 (千円)	164,788	175,836	268,400	117,619	142,043
当期純利益 (千円)	175,028	189,366	269,171	110,588	129,681
資本金 (千円)	2,727,560	2,727,560	2,727,560	2,727,560	2,727,560
発行済株式総数 (株)	18,044,715	18,044,715	18,044,715	1,804,471	1,804,471
純資産額 (千円)	2,934,360	3,157,086	3,160,920	3,227,184	3,274,850
総資産額 (千円)	3,557,166	3,763,536	3,792,357	3,875,448	4,027,135
1株当たり純資産額 (円)	1,699.87	1,829.16	1,831.65	1,870.09	1,897.76
1株当たり配当額 (円)	-	3.00	5.00	50.00	50.00
(うち1株当たり中間配当額)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益金額 (円)	101.39	109.71	155.97	64.08	75.15
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	82.5	83.9	83.4	83.3	81.3
自己資本利益率 (%)	6.4	6.2	8.5	3.5	4.0
株価収益率 (倍)	15.0	16.1	12.9	27.7	23.0
配当性向 (%)	-	27.4	32.1	78.0	66.5
従業員数 (名)	19	19	19	20	20
[外、平均バ - トイマ -]	[1]	[1]	[1]	[1]	[-]

(注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 第70期の1株当たり配当額、配当性向については、無配のため記載しておりません。

4 当社は、平成28年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。第70期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。

2【沿革】

年月	事項
明治40年5月	山形屋洋服店を創業
昭和21年11月	株式会社山形屋を設立
昭和37年1月	東京オーダーソーイング株式会社設立（昭和45年5月に商号を日本ソーイング株式会社に変更）
昭和46年1月	株式会社ギンザヤマガタを設立し、チェーンストア展開
昭和47年1月	ジェスロ株式会社設立（現・日本ソーイング株式会社〔工場〕連結子会社）
昭和55年3月	株式会社ギンザヤマガタを吸収合併し、商号を株式会社銀座山形屋に変更
昭和57年1月	日本ソーイング株式会社は、受注センターを4社に分社
昭和58年2月	日本ソーイング株式会社は、受注センター会社4社を合併（日本ソーイング株式会社〔受注センター〕（平成12年3月31日解散））
昭和58年3月	日本ソーイング株式会社を吸収合併
昭和62年9月	株式を店頭登録
昭和63年9月	株式会社（旧）銀座ファッションを設立（平成12年3月6日清算終了）
昭和63年10月	株式会社東京ファッションを設立（平成12年3月6日清算終了）
平成4年12月	株式会社ワイズを設立
平成5年7月	株式会社ベネックスを設立
平成7年10月	株式会社ワイズの本店を札幌市に移転し、商号を日本ソーイング北海道株式会社に変更（連結子会社）（平成16年3月2日清算終了）
平成9年9月	株式会社ベネックスの商号を株式会社プロデュースに変更
平成10年12月	株式会社アルファベッツを設立
平成11年9月	株式会社銀座ファッションを東京都中央区に設立（連結子会社）（平成17年10月25日清算終了）し、同年10月、解散した旧銀座ファッション及び旧東京ファッションの事業を承継
平成12年3月	株式会社銀座ファッションの本店を岩手県一戸町に移転 株式会社アルファベッツの商号を株式会社エルメックス・ハウスに変更（連結子会社）
平成13年4月	株式会社銀座山形屋リテイリング（平成15年12月24日清算終了）、株式会社ウィングロード、株式会社ジー・ワイ・トレーディング（現 株式会社銀座山形屋トレ・ディング）、株式会社ヴァイソム、株式会社ディーエイチエス、株式会社シンパシー（平成15年12月24日清算終了）を設立（各連結子会社）
平成13年7月	紳士服販売事業を子会社に譲渡し、持株会社となる
平成14年4月	株式会社プロデュースの営業全部を日本ソーイング株式会社に譲渡し、商号を株式会社服装計画舎（平成15年12月24日清算終了）に変更
平成15年4月	株式会社シンパシー（平成15年12月24日清算終了）の営業全部を㈱リベラルの100%出資子会社（当社グループ外）へ譲渡
平成15年5月	第三者割当の方法により560万株（増資後資本金2,727,560千円）の増資を行う
平成16年12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場
平成18年8月	株式会社エルメックス・ハウスの事業を撤退（平成20年1月15日清算終了）
平成20年4月	株式会社ヴァイソム、株式会社ディーエイチエスを吸収合併
平成22年4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所JASDAQ（現 東京証券取引所JASDAQ（スタンダード））に上場
平成25年7月	東京証券取引所と大阪証券取引所の統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）に上場
平成27年4月	本店を東京都中央区湊に移転
平成29年7月	ファクトリー玉野株式会社を設立

3【事業の内容】

当社グループは、当社(株式会社銀座山形屋)及び連結子会社4社で構成されており、紳士服・婦人服等アパレル製
品の商品企画・製造・販売及び靴・鞆・衣料雑貨品・服飾雑貨品・洋服生地等の販売を主たる業務としております。
当社は子会社の株式を所有することによる子会社の支配・管理を行っております。

当社グループが営んでいる事業と当該事業における当社及び連結子会社の位置付けは次のとおりであります。

なお、次の3部門は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメ
ントの区分と同一であります。

また、当連結会計年度より報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第5 経理の状況 1 連結財
務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(1) 小売事業

(株)ウィングロード及び日本ソーイング(株)の店舗等において、主にオーダー紳士・婦人服、カジュアル洋品の小売
販売を行っております。

(2) 卸売事業

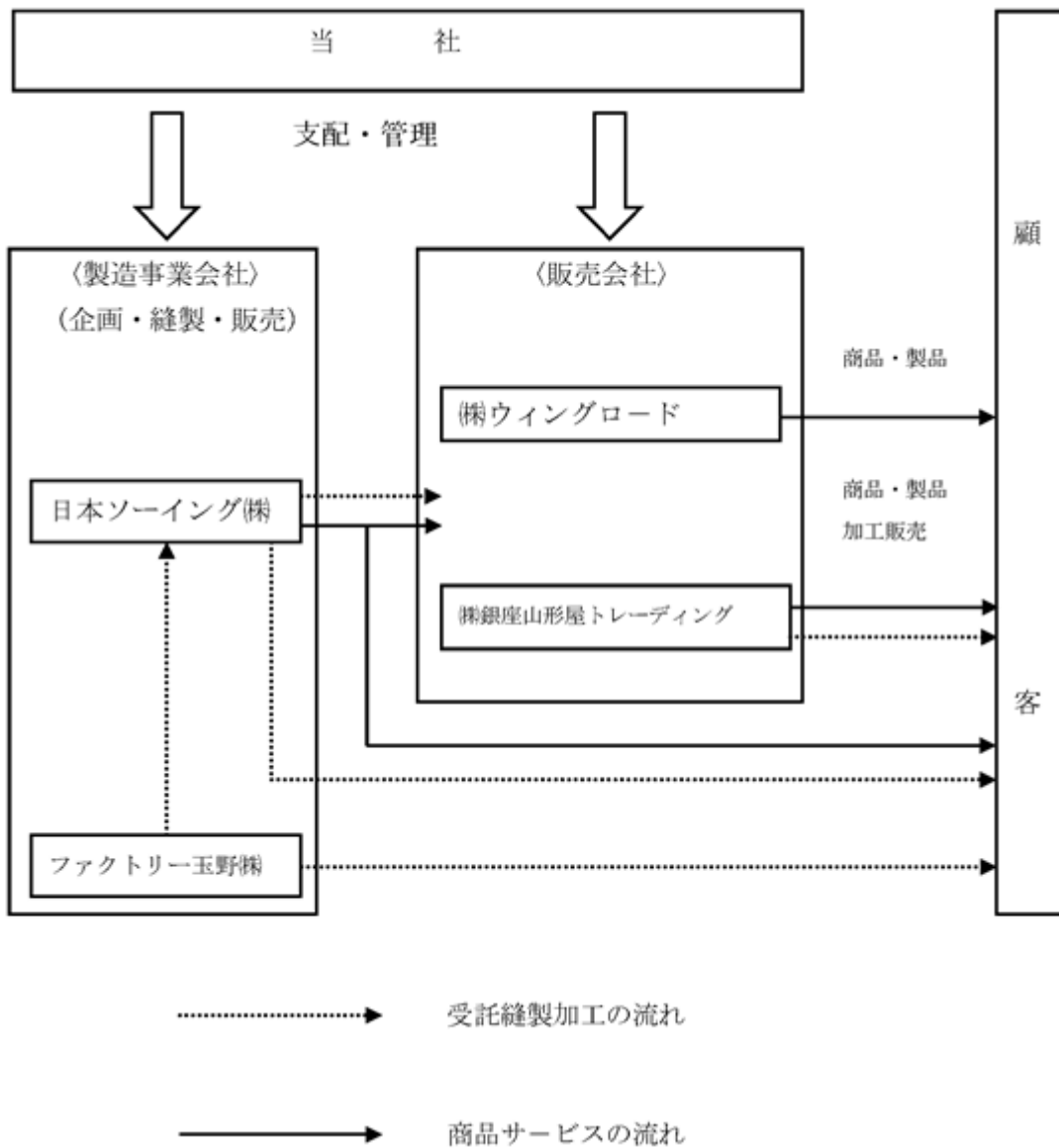
(株)銀座山形屋トレーディングにおいて、主にオーダー紳士・婦人服の卸販売を行っております。

(3) 受託縫製事業

日本ソーイング(株)、(株)銀座山形屋トレーディング及びファクトリー玉野(株)において、紳士・婦人服の受託縫製加
工・販売を行っております。

なお、当社は、有価証券の取引等の規制に関する内閣府令第49条第2項に規定する特定上場会社等に該当してお
り、これにより、インサイダー取引規制の重要事実の軽微基準については連結ベースの数値に基づいて判断すること
になります。

以上に述べた事項の概要図は次のとおりであります。



子会社は、次のとおりであります。

連結子会社

日本ソーイング株式会社

株式会社ウイングロード

株式会社銀座山形屋トレーディング

ファクトリー玉野株式会社

当社グループ会社からの紳士服・婦人服の受託縫製加工・店舗販売・無店舗販売

紳士服・婦人服店舗販売・無店舗販売

紳士服・婦人服無店舗販売・受託加工販売

当社グループ会社からの紳士服の受託縫製加工・受託加工販売

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業の内容	議決権の所有 (被所有)割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有割合 (%)	
(連結子会社) 日本ソーイング(株) (注)3	東京都中央区	100,000	受託縫製事業・小売 事業	100	-	当社が支配・管理 しております。 資金貸付 設備貸貸 役員の兼任4名
(株)ウイングロード (注)3、4	東京都中央区	50,000	小売事業	100	-	当社が支配・管理 しております。 資金貸付 役員の兼任3名
(株)銀座山形屋トレーディング (注)3	東京都中央区	50,000	卸売事業・受託縫製 事業	100	-	当社が支配・管理 しております。 資金貸付 役員の兼任4名
ファクトリー玉野(株) (注)4	岡山県玉野市	10,000	受託縫製事業	100	-	当社が支配・管理 しております。 資金貸付 設備貸貸 役員の兼任1名
(その他の関係会社) (株)カネヨシ	東京都渋谷区	20,000	不動産の賃貸及び管 理	-	31.03	

- (注)1 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。
2 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。
3 日本ソーイング(株)、(株)ウイングロード、(株)銀座山形屋トレーディングについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。
主要な損益情報等

	日本ソーイング(株)	(株)ウイングロード	(株)銀座山形屋 トレーディング
(1) 売上高	3,115,396 千円	2,405,015 千円	1,843,207 千円
(2) 経常利益	42,108	174,628	59,194
(3) 当期純利益	21,600	135,944	49,560
(4) 純資産額	72,646	2,034,345	128,896
(5) 総資産額	1,061,223	1,033,157	620,373

- 4 債務超過会社で債務超過の額は平成30年3月末時点で(株)ウイングロードが2,034,345千円、ファクトリー玉野(株)が39,514千円となっております。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成30年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
受託縫製事業	304 (193)
小売事業	134 (26)
卸売事業	53 (6)
報告セグメント計	491 (225)
その他	20 (-)
合計	511 (225)

- (注) 1 従業員数は就業人員数であります。
2 従業員数の欄の(外書)は、パ-トタイム-の年間平均雇用人員数であります。

(2) 提出会社の状況

平成30年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
20(-)	55.8	28.2	4,289

- (注) 1 従業員数は就業人員数であります。
2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
3 平均勤続年数は、連結グループ会社内で転籍した従業員の勤続年数を通算して算定しております。
4 従業員数の欄の(外書)は、パ-トタイム-の年間平均雇用人員数であります。

(3) 労働組合の状況

(株)銀座山形屋、(株)ウィングロード、(株)銀座山形屋トレーディング

- イ 名称 銀座山形屋労働組合
ロ 結成年月日 昭和58年2月22日
ハ 組合員数 157名
ニ 所属上部団体名 U A ゼンセン専門店ユニオン連合会(略称: S S U A、U A ゼンセン傘下)
ホ 労使関係 労働協約に基づき隔月に労使協議会を開催し、正常かつ円満な労使関係を維持しており、紛争等の事件はありません。

日本ソーイング(株)

- イ 名称 日本ソーイング労働組合
ロ 結成年月日 昭和52年4月1日
ハ 組合員数 319名
ニ 所属上部団体名 U A ゼンセン製造産業部門
ホ 労使関係 労働協約に基づき隔月に労使協議会を開催し、正常かつ円満な労使関係を維持しており、紛争等の事件はありません。

ファクトリー玉野(株)

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営方針

「私たちグループ企業は、お客様から見た商品やサービスの価値を最大化する努力をすることにより、お客様に対し、ファッションを通じ、いきいきとした生活、楽しい生活、充実した生活を提案し続けることにより、お客様より支持され続ける企業を目指します。」という企業理念に基づき、企業活動を実行し、結果として「事業規模の大小にかかわらず、それぞれが目指す分野において、“オンリーワン”としてお客様にその存在価値を認められる、質的に高い一流企業」を目指し、事業を遂行してまいります。

(2) 経営戦略等

第一として、銀座山形屋の服づくりのこだわり「メイド・イン・ジャパン」、「着心地と品質」を柱に、「世界のオーダーメイド企業」をつくる。

第二として「お客様から見た商品やサービスの価値を最大化する努力をすることにより、ファッションを通じ、いきいきとした生活、楽しい生活、充実した生活を提案し続ける」という経営理念に基づき行動する。

第三として「従業員全員がオーダーメイドのプロ」として、服づくり・採寸接客の技術を“ぶれることなく”継続して磨きつづけることによりグループ企業一体となり下記の施策を実行いたしました。

テーラー銀座山形屋の原点に戻り「満足されたお客様は2度目もご愛用いただける100%のリピートオーダーを目指す」を目標に再客（リピーター）を満足度のものさしとし、品質・品揃え・価格・接客・知識すべての分野において接客レベルを向上し、本物のプロとしてのテーラー集団をつくりあげてまいりました。

ブランド事業においては、「今のお客様、今の一着を大切に」する企業集団を念頭におき品質を重点にブランド価値を高める展開を進めてまいりました。

「銀座山形屋ブランド」は、創業110年の伝統を守りながら、銀座発信の良質な大人の装いを提案するとともに、新たな企画・新たな素材等による商品開発が好調に推移いたしました。

「サルトリアプロメッサブランド」は、クラシコイタリアの物づくりにこだわり品質と高感度の両立をテーマに販売員の育成を図ってまいりました。

「ミスターナブランド」は、ビジネスをテーマに他社にないパターンオーダーを追求し、新たな切り口となるカラーレスジャケット・オーダーブラウスも好調に推移いたしました。

「プレフブランド」は、オーダースーツの入門編として28歳をメインターゲットに自分だけの一着をつくる楽しさを体感してもらい、伝統と若者の融合をテーマに取り組みでまいりました。また、インターネットでの販売方法にもチャレンジしてまいりました。

製造部門におきましては、品質の安定と人材育成がテーマとなり、オペレーター一人ひとりのスキルアップのため、現場での育成教育を積極的に行い、縫製技能士の資格獲得者も増え生産効率も改善され安定した生産が出来ました。また、昨年8月に岡山県玉野市の紳士コート縫製事業を譲り受けたことにより、従来はオーダーメイド展開していなかった商品の縫製が可能となりました。販売員一人ひとりがレベルアップし「満足されたお客様は2度目もご愛用いただける100%のリピートオーダーを目指す」を目標に再客（リピーター）を満足度のものさしとし、品質・品揃え・価格・接客・知識すべての分野において接客レベルを上げ、本物のプロとしてのテーラー集団をつくりあげてまいりました。

(3) 経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社は「安定した利益とキャッシュ・フローを出せる経営基盤の確立」の方針のもと、継続的に企業価値の向上を図ることが株主重視の経営と認識し、成長性の確保を図りながら、売上高経常利益率の向上と総資産回転率の向上を目指しております。

(4) 経営環境

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府の経済政策や金融政策を背景に緩やかな回復基調がみられ、企業業績の改善・賃金上昇の動きも出始めてはいるものの消費支出の拡大が広く浸透するまでには至らず、先行き不透明な状況が続きました。

当社を取り巻く環境におきましては、消費者の節約志向は依然として強く、パターンメイドスーツにおける企業間競争もあり、厳しい経営環境が続きました。

このような環境のもと当社グループは「安定した利益とキャッシュ・フローを出せる経営基盤の確立」の方針のもと、収益力向上に努めてまいりました。

(5) 事業上及び財務上の対処すべき課題

今後の見通しにつきましては、景気の緩やかな回復が見込まれるものの、個人消費につきましては引き続き不透明であることに加え、企業間競争も厳しさを増すものと予想されます。

このような状況のもと当社グループは、営業利益および営業キャッシュ・フローの継続的黑字化の基盤を構築するためオーダーメイド事業の接客・品質を向上させながら販売・生産の拡大・強化をはかってまいります。

その結果、基本的な対処すべき課題は以下のとおりであります。

テーラー銀座山形屋の原点である「満足されたお客様は2度目もご愛用いただける100%のリピートオーダーを目指す」を目標に再客（リピーター）を満足度のものさしとし、品質・品揃え・価格・接客・知識すべての分野における接客レベルを向上し、本物のプロとしてのテーラー集団をつくりあげてまいります。

ブランド事業においては、着易さを追求し品質に拘りを持つテーラー集団を作り上げるために「銀座山形屋ブランド」は、新たな仕立・仕様の企画開発及び銀座山形屋オリジナルのテキスタイル(服地)を増やし競合他社との差別化をはかってまいります。

「サルトリアプロメッサブランド」は、「ローマンルックモデル」を中心に新たなボトムスの企画開発を行い、スーツとともにジャケット&スラックスの提案強化をはかってまいります。

「ミスターナブランド」は、ビジネスキャリアを中心にパターンオーダーでの領域を超えた展開をはかり新たな着こなしの提案をはかってまいります。

「ブレフブランド」は、今年4月にd p i 2店舗をブレフ神田店およびネットサロンブレフに業態変更し店舗販売と昨年立ち上げた自社サイトによるWe bオーダーを販売強化してまいります。

製造部門におきましては品質の安定と生産性効率の改善をはかってまいります。生産性を高めるべく工程内不良「ゼロ」を目指し、人材確保が難しい状況において自動機械の導入をはかり、品質の向上にむけてオペレーター一人ひとりのスキル向上のための服づくり教育を継続して実施してまいります。

2【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、当社グループの経営成績及び財政状態等に影響を及ぼす可能性のあるリスクには以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績の季節的変動

当社グループの主な製造・販売品目はスーツを中心とした重衣料であります。商品の持つ季節的特性として、単価、数量いずれにおいても下半期に集中していることから、売上高、営業損益が下半期に偏る傾向があります。

(2) 出店条件

新規出店する際の物件の選定にあたっては、店舗の採算性を最も重視しており、保証金、賃借料、商圈内人口等について事前に調査を実施し、損益シミュレーション、投資回収期間予測を行い、一定条件を満たす物件を対象としております。

このため、出店条件を満たす物件を確保できない場合は、想定している売上高の成長性に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 製造コストの海外生産品との比較

当社グループの注文服は国内製造子会社において製造しておりますが、同業他社においてはコスト優位の面に着目して、海外での生産による加工代の極めて安い製品の取扱を一部で展開し始めております。

現在は納期、運搬コスト、品質等の問題もあり、その生産の急激なシフトは起こっておりません。

しかし、将来海外での生産による製品の調達常态化すれば、当社製造子会社への影響は大きく、結果として当社グループの損益に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 製造部門における労働力の確保

当社グループの製造拠点は、北海道（芦別市）・岩手県（二戸郡一戸町）・福岡県（飯塚市）・岡山県（玉野市）の四拠点であります。地域特性はあるものの、製造部門の労働力の確保は大変厳しい環境にあります。製造部門の労働力は、生産ラインの安定稼働及び品質改善にむけた取り組みを実現させる為に高い縫製スキルをもつ社員を育成させる事が重要な要素となってまいります。オーダー事業の成長性を実現させる上でも製造部門の労働力が確保できない場合には、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府の経済政策や金融政策を背景に緩やかな回復基調がみられ、企業業績の改善・賃金上昇の動きも始めているものの消費支出の拡大が広く浸透するまでには至らず、先行き不透明な状況が続きました。

一方、当社を取り巻く環境におきましては、消費者の節約志向は依然として強く、パターンメイドスーツにおける企業間競争もあり、厳しい経営環境が続きました。

このような環境のもと当社グループは「安定した利益とキャッシュ・フローを出せる経営基盤の確立」の方針のもと、収益力向上に努めてまいりました。

この結果、当連結会計年度の経営成績は、売上高53億9千8百万円（前期比3.6%増）となりました。

オーダーメイドスーツ売上高は、より良い一着を求めお客様に対し、品質にこだわり、テラー銀座山形屋のプロとして一着一着を大切に販売することを“ぶれることなく”継続しつづけてきたことにより、結果として、1着当たりの販売単価がアップし数量も増加いたしました。売上総利益率は、紳士コート縫製事業の製造コスト増加により1.1ポイント減少し、販売費及び一般管理費は、今年2月の十日市場店改装及び前連結会計年度3店舗出店による費用増加となり、経常利益は2億1千4百万円（前期比26.4%減）となりました。また、減損損失及びゴルフ会員権評価損を6千9百万円計上したことにより親会社株主に帰属する当期純利益は1億5百万円（前期比49.1%減）となりました。

なお、当連結会計年度末における店舗網は、(株)ウィングロード24店舗、日本ソーイング(株)11店舗であり、グループ合計で35店舗になっております。

セグメントごとの業績は、次のとおりであります。

なお、当連結会計年度より、報告セグメントの区分方法等を変更しており、以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

小売事業

オーダーメイドスーツの売上が比較的順調に推移したことから売上高、営業利益ともに増収増益となりました。その結果、売上高は29億8千8百万円（前期比5.3%増）、営業利益1億6千7百万円（前期比49.0%増）となりました。

卸売事業

売上高は増収となったものの、オーダーメイドスーツの工賃改定等の影響により減益となりました。その結果、売上高14億6千2百万円（前期比1.1%増）、営業利益2千6百万円（前期比61.2%減）となりました。

受託縫製事業

平成29年7月20日にファクトリー玉野榊を設立し、譲り受けた紳士コート縫製事業を同社にて開始いたしました。初期投資費用等が発生したこともあり、売上高は増収となったものの減益となりました。

その結果、売上高29億7千8百万円（前期比3.0%増）、営業利益1千8百万円（前期比78.2%減）となりました。

財政状態の状況

当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末と比較して3億2千8百万円増加し、53億9千8百万円となりました。

資産の部では、流動資産が前連結会計年度末と比較して2億7千9百万円増加しました。当連結会計年度末が休日になったため、買掛金等の債務決済が翌連結会計期間に繰り越されたことにより、現金及び預金等が前連結会計年度と比較して増加したこと等によるものであります。

固定資産は前連結会計年度末と比較して4千8百万円増加しました。主な要因は事業譲受によるのれんの増加2千6百万円及び投資有価証券の時価の増加によるもの2千5百万円等であります。

負債の部では、前連結会計年度末と比較して3億4百万円増加し21億3千8百万円となりました。これは、主に買掛金等の債務決済が翌連結会計期間に繰り越されたこと及び受注予約預り金の増加（流動負債その他を含む）等によるものであります。

純資産の部においては、主に当期純利益1億5百万円の計上をした一方で、剰余金の配当8千6百万円を行った結果、当連結会計年度末の株主資本は、前連結会計年度と比較して1千9百万円の増加となりました。

また、その他有価証券評価差額金は5百万円の増加でありました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物は前連結会計年度末に比べ1億8千7百万円増加し、当連結会計年度末には15億4千万円となりました。

当連結会計年度におけるキャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により得られた資金は4億4千8百万円(前期は3億円の収入)となりました。これは税金等調整前当期純利益1億4千4百万円や当連結会計期間末日が金融機関の休日であったため買掛金等の支払いが翌連結会計期間に繰り越されたことによる仕入債務の増加1億4百万円及び減価償却費9千万円を計上したこと並びに前受金の増加及び預り金の増加等の要因によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動に使用した資金は1億7千万円(前期は4千9百万円の使用)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出9千5百万円及び事業譲受による支出6千万円があったこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動に使用した資金は9千万円(前期は9千2百万円の使用)となりました。これは主に配当金の支払額8千2百万円及びリース債務の返済による支出8百万円があった事等によるものであります。

生産、受注及び販売の実績

a. 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	前年同期比(%)
小売事業(千円)	-	-
卸売事業(千円)	-	-
受託縫製事業(千円)	2,194,941	109.0
報告セグメント計(千円)	2,194,941	109.0
その他(千円)	-	-
合計(千円)	2,194,941	109.0

(注) 1 金額は製造原価によっております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

b. 受注実績

当連結会計年度の受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比 (%)	受注残高(千円)	前年同期比 (%)
小売事業	2,514,015	108.1	193,794	141.2
卸売事業	1,397,761	100.1	63,653	89.2
受託縫製事業	892,019	99.9	60,234	115.3
報告セグメント計	4,803,795	104.1	317,682	121.8
その他	-	-	-	-
合計	4,803,795	104.1	317,682	121.8

(注) 1 金額は販売価格によっており、セグメント間の取引については相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

c. 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	前年同期比(%)
小売事業(千円)	2,988,718	105.3
卸売事業(千円)	1,462,002	101.1
受託縫製事業(千円)	938,986	102.6
報告セグメント計(千円)	5,389,707	103.7
その他(千円)	9,272	89.8
合計(千円)	5,398,979	103.6

(注) 1 セグメント間の取引については相殺消去しております。

2 主要な販売先につきましては、いずれの販売先も総販売実績に対する割合が100分の10未満のため記載は省略しております。

3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。連結財務諸表を作成するにあたり、貸倒引当金の計上、固定資産の評価、繰延税金資産の回収可能性など、資産・負債及び収益・費用の計上金額に重要な影響を与える見積りを行っておりますが、実際の結果は見積り特有の不確実性があるためそれらの見積りと相違する場合があります。

なお、連結財務諸表の作成のための重要な会計方針等は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 注記事項(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)」に記載のとおりであります。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

a. 経営成績等

当連結会計年度の業績は、売上高53億9千8百万円（前期比3.6%増）となりました。

オーダーメイドスーツ売上高は、より良い一着を求めるお客様に対し、品質にこだわり、テーラー銀座山形屋のプロとして一着一着を大切に販売することを“ぶれることなく”継続しつづけてきたことにより、結果として、1着当たりの販売単価がアップし数量も増加いたしました。売上総利益率は、紳士コート縫製事業の製造コスト増加により1.1ポイント減少し、販売費及び一般管理費は、今年2月の十日市場店改装及び前連結会計年度3店舗出店による費用増加となり、経常利益は2億1千4百万円（前期比26.4%減）となりました。また、減損損失及びゴルフ会員権評価損を6千9百万円計上したことにより親会社株主に帰属する当期純利益は1億5百万円（前期比49.1%減）となりました。

b. 経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

当社グループは、服づくりのこだわり「メイド・イン・ジャパン」、「着心地と品質」を柱に、「世界一のオーダーメイド企業」を目指しておりますが、経営に影響を与える大きな要因として生産能力の低下があります。

注文服は国内製造拠点、北海道（芦別市）・岩手県（二戸郡一戸町）・福岡県（飯塚市）・岡山県（玉野市）において製造しておりますが、地域特性はあるものの人口減少傾向にあり、また縫製業の若年層離れ等労働力の確保は大変厳しい環境にあります。生産ラインの安定稼働及び品質改善に向けた取り組みを実現させる為、自動機械導入・「多能工」育成を行うとともに、オペレーター一人ひとりのスキル向上のための服づくり教育を継続して実施しております。

c. セグメントごとの財政状態及び経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

小売事業

オーダーメイドスーツの売上が比較的順調に推移したことから売上高、営業利益ともに増収増益となりました。

基幹3ブランドのなかで紳士服が順調でありましたが、28歳をメインターゲットにしたプレフブランドは競争激化により厳しい状況となりました。その結果、売上高は29億8千8百万円（前期比5.3%増）、営業利益1億6千7百万円（前期比49.0%増）となりました。セグメント資産は、十日市場店舗改装等により前連結会計年度末に比べ1億1千2百万円増加の11億3千7百万円となりました。

卸売事業

売上高は主力の卸部門が増収であり販売単価・数量とも増加となったものの、オーダーメイドスーツの工賃改定等の影響により減益となりました。その結果、売上高14億6千2百万円（前期比1.1%増）、営業利益2千6百万円（前期比61.2%減）となりました。セグメント資産は、車両買換え等により前連結会計年度末に比べ3千4百万円増加の6億3千1百万円となりました。

受託縫製事業

平成29年7月20日にファクトリー玉野㈱を設立し、譲り受けた紳士コート縫製事業を同社にて開始いたしました。この初期投資費用等が発生したことと福岡工場への受注と生産が安定せず生産効率が悪化したこともあり、売上高は増収となったものの減益となりました。その結果、売上高29億7千8百万円（前期比3.0%増）、営業利益1千8百万円（前期比78.2%減）となりました。セグメント資産は、紳士コート縫製事業の譲り受け等により前連結会計年度末に比べ2億7千1百万円増加の10億2千8百万円となりました。

d. 経営方針、経営戦略、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社グループは、「安定した利益とキャッシュ・フローを出せる経営基盤の確立」の方針のもと、継続的に企業価値の向上を図ることが株主重視の経営と考え、主に「売上高対経常利益率」を重要な指標として位置付けております。当連結会計年度の「売上高対経常利益率」は4.0%（前期比1.6%減）と成長性をつくるための費用先行となっておりますが、引き続きこの指標について、改善されるよう取り組んでまいります。

e. 資本の財源及び資金の流動性

資金需要

当社グループの資金需要は主に大きく分けて運転資金需要と設備資金需要の二つがあります。運転資金需要の主なものは、販売会社として機能するための服地・商品の仕入、各販売事業についての販売費及び一般管理費等の営業費用及び縫製事業として製品を製造するための材料仕入、製造費並びに共通するものとして販売費及び一般管理費等であります。また、設備資金需要の主なものは、店舗の内装・改装、営業車両、縫製工場の建物、機械装置等固定資産購入に加え、全国の販売網と製造拠点との情報処理の為の無形固定資産投資等があります。

財務政策

当社グループは現在、運転資金・設備資金とも資金計画に基づき内部資金より充当しております。資金については子会社4社を含め当社において一元管理しております。また、当社グループの事業拡大・品質向上投資等、内部資金で不足する場合は、長期借入金等により調達を行ってまいります。

4 【経営上の重要な契約等】

当社は、平成29年7月11日に株式会社野海との間で紳士コート縫製事業に関する資産等譲渡契約を締結し、当該事業を譲り受けました。

詳細は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 注記事項（企業結合等関係）」に記載のとおりであります。

5 【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループでは、販売力の強化、生産力増強などを目的とした設備投資を継続的に実施しており、結果として当連結会計年度の設備投資の総額は1億3千5百万円となりました。

なお、当社グループの設備投資額には、敷金および保証金への投資額を含めて記載しております。

また、当連結会計年度において重要な設備の除却、売却等はありません。

2【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成30年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)	
			建物及び 構築物	車両 運搬具	土地 (面積㎡)	工具、器具 及び備品	リ-ス 資産	敷金 及び 保証金		合計
《本社》 (東京都中央区)	その他	本社内装 等	18,328	2,036	-	5,704	-	270,225	296,296	20
小計			18,328	2,036	-	5,704	-	270,225	296,296	20
《賃貸》 日本ソーイング㈱ 北海道工場 (北海道芦別市)	その他	製造子会 社に対す る賃貸用 設備	1,685	-	55,068 (23,728.8)	-	-	-	56,753	-
日本ソーイング㈱ 福岡工場 (福岡県飯塚市)	"	"	42,754	-	199,868 (17,471.0)	-	-	-	242,622	-
日本ソーイング㈱ 岩手工場 (岩手県二戸郡 一戸町)	"	"	46,125	-	102,401 (17,011.7)	-	-	-	148,527	-
ファクトリー玉野 ㈱岡山工場 (岡山県玉野市)	"	"	9,333	-	3,680 (156.0)	-	-	-	13,013	-
小計			99,899	-	361,017 (58,362.5)	-	-	-	460,916	-
《保養所》 (神奈川県足柄下 郡箱根町他)	その他	厚生施設	1,885	-	905 (19.0)	-	-	-	2,790	-
小計			1,885	-	905 (19.0)	-	-	-	2,790	-
合計			120,113	2,036	361,922 (58,381.5)	5,704	-	270,225	760,003	20

(注) 1 現在休止中の主要な設備はありません。

2 上記金額には、消費税等を含めておりません。

(2) 国内子会社

平成30年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)							従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	工具、器具 及び備品	リ-ス 資産	敷金 及び 保証金	合計	
㈱ウイ ング ロード	北海道 (5店舗)	小売事業	店舗内装等	347	-	-	0	-	88,989	89,336	10
	千葉県 (3店舗)	"	"	608	-	-	75	-	36,835	37,519	9
	埼玉県 (1店舗)	"	"	-	-	-	75	-	20,000	20,075	3
	東京都 (8店舗)	"	"	11,667	-	-	2,303	-	100,121	114,093	37
	神奈川県 (6店舗)	"	"	48,178	-	-	3,518	-	144,370	196,067	20
	大阪府 (1店舗・外販)	"	"	-	-	-	127	-	4,343	4,471	5
	《本社事務所》 (東京都渋谷区)	"	本社内装等	-	-	-	-	-	900	900	17
	小計			60,801	-	-	6,101	-	395,560	462,463	101
㈱銀座山 形屋ト レーディ ング	札幌営業所 (北海道札幌市 北区)	卸売事業 受託縫製 事業 小売事業	営業所	-	-	-	-	-	240	240	8
	仙台営業所 (宮城県仙台市 泉区)	卸売事業 受託縫製 事業	"	-	-	-	187	7,046	1,530	8,763	5
	新潟営業所 (新潟県新潟市 西区)	卸売事業	"	-	-	-	-	4,472	50	4,522	3
	名古屋営業所 (愛知県名古屋市 昭和区)	卸売事業 受託縫製 事業 小売事業	"	-	-	-	75	5,084	1,892	7,052	6
	大阪営業所 (大阪府大阪市 西区)	卸売事業 受託縫製 事業	"	-	-	-	75	1,719	3,325	5,120	7
	広島営業所 (広島県広島市 西区)	卸売事業 受託縫製 事業 小売事業	"	-	-	-	75	5,378	1,600	7,054	6
	福岡営業所 (福岡県福岡市 博多区)	卸売事業 受託縫製 事業 小売事業	"	-	-	-	-	-	7,850	7,850	8
	《本社事務所》 (東京都渋谷区)	卸売事業	本社内装等	-	-	-	-	6,782	1,568	8,350	21
	小計			-	-	-	415	30,484	18,055	48,954	64

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)	
				建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	工具、器具 及び備品	リ-ス 資産	敷金 及び 保証金		合計
日本 ソーイ ング㈱	北海道工場 (北海道 芦別市)	受託縫製 事業	縫製機器 設備等	7,913	47,505	752 (537.86)	587	-	220	56,979	64
	岩手工場 (岩手県二戸郡 一戸町)	"	"	10,703	37,546	-	855	-	114	49,220	109
	福岡工場 (福岡県 飯塚市)	"	"	2,147	6,396	-	167	-	-	8,711	56
	東京都 (9店舗)	小売事業 卸売事業	店舗内装等	11,898	977	-	4,694	1,283	32,555	51,409	32
	F C店舗 (2店舗)	受託縫製 事業	"	-	-	-	-	-	7,546	7,546	-
	《本社事務所》 (東京都 中央区)	"	本社内装等	-	-	-	209	-	175	384	28
	小計			32,663	92,426	752 (537.86)	6,514	1,283	40,611	174,251	289
ファク トリー 玉野㈱	岡山工場 (岡山県 玉野市)	受託縫製 事業	縫製機器 設備等	7,092	17,983	-	340	-	-	25,415	37
	小計			7,092	17,983	-	340	-	-	25,415	37
	合計			100,558	110,409	752 (537.86)	13,370	31,767	454,227	711,085	491

- (注) 1 現在休止中の主要な設備はありません。
2 上記金額には、消費税等を含めておりません。
3 上記従業員にはパ - トタイム - 225名を含めておりません。

(3) 在外子会社
該当事項はありません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等
該当事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等
該当事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	3,570,600
計	3,570,600

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成30年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成30年6月26日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	1,804,471	1,804,471	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	1,804,471	1,804,471	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成25年6月26日 (注)1	-	18,044,715	-	2,727,560	242,303	-
平成28年10月1日 (注)2	16,240,244	1,804,471	-	2,727,560	-	-

(注)1 資本準備金の減少は、欠損填補によるものであります。

2 平成28年10月1日付で、普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。これにより株式併合後の発行済株式総数は16,240,244株減少し、1,804,471株となっております。

(5) 【所有者別状況】

平成30年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	1	10	68	5	-	3,392	3,476	-
所有株式数(単元)	-	94	25	8,914	468	-	8,483	17,984	6,071
所有株式数の割合(%)	-	0.52	0.14	49.57	2.60	-	47.17	100.00	-

(注) 1 自己株式78,835株は、「個人その他」に788単元、「単元未満株式の状況」に35株含まれております。

2 「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、11単元含まれております。

(6) 【大株主の状況】

平成30年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社カネヨシ	東京都渋谷区千駄ヶ谷三丁目60番5号	560	32.45
山形 政弘	東京都杉並区	89	5.17
金澤 良樹	東京都国分寺市	69	4.00
G Y会持株会	東京都中央区湊二丁目4番1号	66	3.83
B T C協同組合	東京都千代田区神田須田町二丁目1	56	3.27
ザ バンク オブ ニューヨーク ノントリーティー ジャスデック アカウント(常任代理人三菱東京UFJ銀行)	225 LIBERTY STREET, NEW YORK. NEW YORK 10286, U. S. A. (東京都千代田区丸の内二丁目7番1号)	45	2.61
中島 眞喜子	神奈川県川崎市麻生区	37	2.17
田邊 友紀恵	東京都世田谷区	37	2.17
カネ美食品株式会社	愛知県名古屋市長区徳重三丁目107	25	1.45
東京注文服専門店会協同組合	東京都千代田区神田須田町二丁目1	24	1.42
計	-	1,010	58.55

(注) 1 上記のほか、当社所有の自己株式78千株(持株比率4.37%)があります。

2 株式会社三菱東京UFJ銀行は、平成30年4月1日付で株式会社三菱UFJ銀行に商号変更しております。

(7)【議決権の状況】
【発行済株式】

平成30年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 78,800	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,719,600	17,196	同上
単元未満株式	普通株式 6,071	-	同上
発行済株式総数	1,804,471	-	-
総株主の議決権	-	17,196	-

(注) 1 「単元未満株式」の欄には当社所有の自己株式35株が含まれております。

2 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,100株含まれております。また、「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数11個が含まれております。

【自己株式等】

平成30年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社銀座山形屋	東京都中央区湊 二丁目4番1号	78,800	-	78,800	4.37
計	-	78,800	-	78,800	4.37

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	52	88,868
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式には、平成30年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買回による株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他(-)	-	-	-	-
保有自己株式数	78,835	-	78,835	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成30年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は、利益配分につきましては、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題と位置付けております。そのために、当社は継続的な「成長性の創造」と「株主価値の最大化」を目指すことで企業発展の源泉として利益確保に努めるとともに、株主の皆様に対して適正かつ安定した利益配分を継続することを基本方針としております。

そして、今後も予想される厳しい経営環境の中で収益力確保に繋がる内部留保の充実なども考慮しつつ調和のとれた利益配分に努めてまいります。

当社は、期末配当の年1回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会であります。

また、内部留保資金につきましては、将来の経営基盤拡大にむけた、新技術・新製品の展開・戦略的な人材開発・教育とともに、生産設備の拡充等の原資とするほか、中長期的な成長戦略の原資としての有効活用してまいります。

当社は、取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

当事業年度の期末配当金につきましては、上記方針及び業績や財務状況、並びに今後の経営環境等を総合的に勘案いたしまして、1株につき50円の配当とさせていただきます。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
平成30年6月25日 定時株主総会決議	86,281	50

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第70期	第71期	第72期	第73期	第74期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
最高(円)	189	202	249	1,900 (203)	1,898
最低(円)	70	133	174	1,661 (167)	1,650

(注) 1 最高・最低株価は、平成25年7月16日より東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであり、それ以前は大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

2 平成28年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施したため、第73期の株価については当該株式併合後の最高・最低株価を記載し、()内に当該株式併合前の最高・最低株価を記載しております。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年10月	11月	12月	平成30年1月	2月	3月
最高(円)	1,730	1,769	1,792	1,898	1,892	1,878
最低(円)	1,710	1,686	1,751	1,780	1,750	1,710

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

5【役員の状況】

男性10名 女性 - 名 (役員のうち女性の比率 - %)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役会長		山形 政弘	昭和22年9月24日生	昭和47年9月 当社入社 昭和50年8月 取締役 昭和54年8月 常務取締役 昭和58年4月 専務取締役 平成元年4月 代表取締役社長 平成15年6月 代表取締役会長 平成19年4月 代表取締役社長 平成29年4月 代表取締役会長就任(現任)	(注)3	89
代表取締役社長		小口 弘明	昭和27年4月20日生	昭和50年4月 (株)ギンザヤマガタ入社(現株銀座山形屋) 平成15年4月 (株)ウィングロ - ド取締役 平成16年12月 同社代表取締役 平成18年6月 当社取締役 平成19年10月 (株)オリンピック入社 平成21年3月 同社退社 平成21年3月 当社入社 平成21年4月 (株)ウィングロ - ド代表取締役社長 平成21年6月 当社取締役 平成24年4月 (株)銀座山形屋トレーディング代表取締役社長 平成26年4月 日本ソーイング(株)代表取締役社長 平成27年6月 当社常務取締役 平成28年6月 当社専務取締役 平成29年4月 代表取締役社長就任(現任) 平成29年4月 (株)ウィングロ - ド代表取締役社長就任(現任)	(注)3	1
取締役		竹下 仁	昭和20年7月19日生	昭和43年3月 日揮工事(株)入社 昭和62年6月 同社代表取締役社長 平成15年6月 同社退任 平成15年9月 (株)横浜化工機監査役(現任) 平成16年6月 当社監査役 平成21年6月 (株)銀座山形屋トレーディング代表取締役社長 平成21年6月 当社取締役就任(現任) 平成24年4月 (株)銀座山形屋トレーディング代表取締役会長就任(現任)	(注)3	13
取締役		長沢 勝也	昭和39年3月29日生	昭和57年3月 (株)銀座山形屋入社 平成14年4月 (株)ウィングロード ノックスウッド店舗営業課長 平成24年4月 (株)ウィングロ - ド店舗事業部長 平成26年6月 当社取締役就任(現任) 平成26年6月 (株)ウィングロード代表取締役社長 平成29年4月 (株)銀座山形屋トレーディング代表取締役社長就任(現任)	(注)3	4
取締役	管理部長	渡邊 光潤	昭和29年2月17日生	昭和51年4月 日本ソーイング(株)入社 昭和58年2月 当社入社 平成15年4月 経理部次長 平成20年11月 管理部長(現任) 平成27年6月 当社取締役就任(現任)	(注)3	1

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役		田中 秀文	昭和25年10月22日生	平成15年2月 ゼンケンオール(株)取締役 平成20年12月 (株)ミネルヴァインテリジェンス代表取締役 平成20年12月 (株)こども英会話のミネルヴァ代表取締役 平成23年4月 (株)データプラン代表取締役 平成25年5月 (株)イノーバー代表取締役 平成27年6月 当社取締役就任(現任)	(注)3	
常勤監査役		傳田 秀一	昭和23年8月19日生	昭和50年3月 (株)山形屋入社(現(株)銀座山形屋) 平成13年4月 (株)ジーワイトレーディング取締役(現(株)銀座山形屋トレーディング) 平成14年10月 (株)ヴァイソム取締役 平成16年4月 (株)銀座山形屋トレーディング パーソナル営業部 平成20年4月 (株)ウイングロード パーソナル営業部 平成29年6月 当社常勤監査役就任(現任)	(注)4	0
監査役		若山 正彦	昭和20年1月22日生	昭和54年6月 当社顧問弁護士 昭和63年4月 当社監査役就任(現任)	(注)4	0
監査役		中島 弘紀	昭和20年7月29日生	昭和48年3月 (株)ギンザヤマガタ入社(現(株)銀座山形屋) 平成13年4月 (株)ディ・エイチエス代表取締役 平成17年6月 当社監査役就任(現任)	(注)5	6
監査役		森 英雄	昭和30年1月18日生	平成20年10月 (株)商工組合中央金庫取締役常務執行役員 平成25年6月 同社 代表取締役副社長 平成28年6月 同社 退任 平成28年8月 八重洲商工(株)代表取締役社長 平成30年3月 同社 退任 平成30年6月 当社監査役就任(現任)	(注)6	
計						116

- (注) 1 監査役若山正彦及び森英雄は、社外監査役であります。
- 2 取締役田中秀文は、社外取締役であります。
- 3 平成29年6月28日開催の定時株主総会の終結の時から2年間
- 4 平成29年6月28日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
- 5 平成28年6月29日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
- 6 平成30年6月25日開催の定時株主総会の終結の時から3年間

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

(コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方)

当社は、「私達は、お客様に対し、ファッションを通じ、いきいきとした生活、楽しい生活、充実した生活を提案し続けることにより、そのお客様より支持されつづける企業を目指します」という企業理念に基づき、企業活動を実行し、結果として「事業規模の大小にかかわらず、それぞれが目指す分野において、“オンリーワン”としてお客様にその存在価値を認められる、質的に高い一流企業」を目指し、コンプライアンスの意識強化を図ると共に、現在の取締役、監査役制度を一層強化しながら、コーポレート・ガバナンスを充実させていきたいと考えております。また、株主、投資家の皆様へは、迅速かつ正確な情報開示に努めると共に幅広い情報公開により、経営の透明性を高めてまいります。

そして、法令を遵守し、経営の「健全性」「透明性」を向上させるコーポレート・ガバナンスの確立が、企業価値を高める重要な経営課題の一つとして認識しております。

企業統治の体制

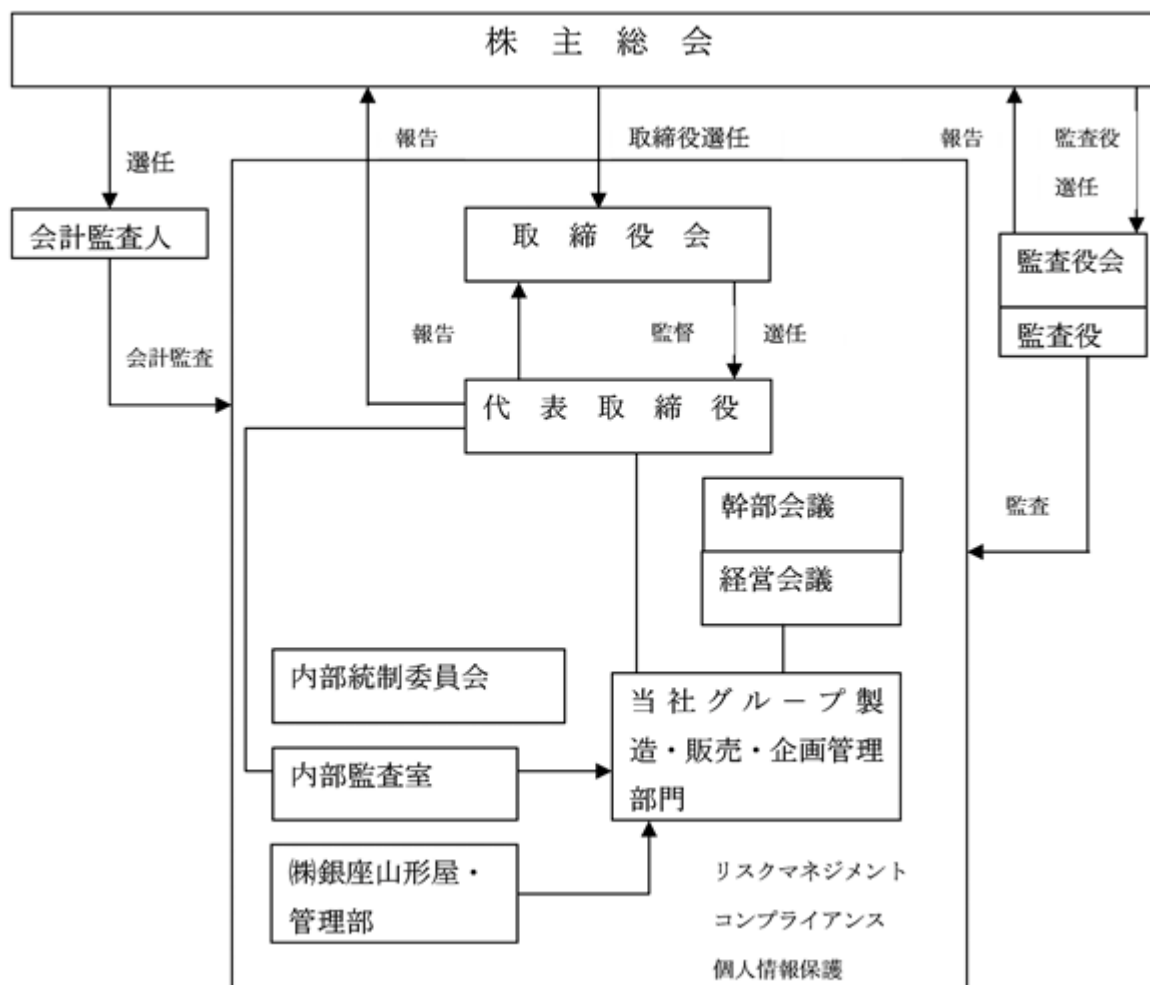
イ 企業統治の体制の概要

当社は監査役制度を採用しており監査役会は、経営に対する監査機能を十分に発揮するため、提出日現在4名の監査役のうち2名は社外監査役で構成しております。また、取締役及び監査役が出席する取締役会を1ヶ月に1回以上開催し、経営の方針、法令で定められた事項その他経営に関する重要事項を決定し、また各事業部門の業務の進捗状況をレビューすることで、業務執行の監督を行っております。

ロ 内部統制システムの整備の状況

当社は、内部統制システムをコーポレート・ガバナンスを機能させるための重要なインフラと位置付け、内部統制システムの基本方針を定めるとともに内部統制委員会を設置し、取締役や社員の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制の整備や、その他の業務の適正を確保するための体制の整備を進めております。

当社のコーポレート・ガバナンスの体制は次のようになっております。



八 子会社の業務の適正を確保するための体制整備

持株会社である当社は、当社グループ全体の人事・総務・経理・財務を担当する管理部を設置しております。管理部はグループ各社の事業部門からは独立しており当社グループ全体の業務の適正を確保する体制を構築し運用しております。

取締役及びグループ各社の幹部が出席する月次業績報告会を毎月1回以上開催し、当社との連携・情報の共有を保ちつつ、グループ各社の規模・事業の特質を踏まえ、自律的にグループ各社における内部統制の実効性を高める施策を実施するとともに、必要に応じてグループ各社への指導・支援を行っております。更に、当社グループ会社として、財務報告の信頼性を確保し、社会的な信用の維持・向上に資するために、財務報告に係る内部統制体制を整備し、その適切な運用・管理を図っております。

二 内部監査及び監査役監査の状況

当社は内部牽制組織として代表取締役社長の直轄で内部監査室（人員1名）を設置し、内部監査担当者が「内部監査規程」に基づき、監査計画を策定し、定期的に本社管理部門及び各子会社の店舗・営業所・製造部門に対して、日常業務の適法性の監査を実施するとともに、業務改善に関する指摘、助言を行い、業務の効率化や改善を図っております。

また、監査役監査は、常勤監査役1名が定期的実施しております。また、監査役と会計監査人との相互連携については、情報交換会を定期的開催し、お互いのコミュニケーションを図っております。

ホ 会計監査の状況

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は伊藤治郎氏、加藤克彦氏であり有限責任監査法人ト・マツに所属しております。当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士7名、会計士試験合格者2名、その他5名であります。

ヘ 社外取締役及び社外監査役の状況

当社の社外監査役は2名であります。

社外監査役若山正彦は、弁護士としての専門的見地から意見を述べ取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っており、監査役会においても議案に対する活発な質疑を行っております。

社外監査役安部修武は、当社以外の取締役経験者の見地から意見を述べるなど、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。

なお、当社と社外監査役との間には資本及び取引等の関係はなく独立性を有するものと考え、社外監査役として選任しております。

当社において、社外監査役を選任するための独立性について特段の定めはありませんが、専門的な知見に基づく客観的かつ適切な助言・提言といった機能及び役割が期待され、一般株主と利益相反が生じるおそれがないことを基本的な考え方として、選任しております。

社外監査役は、取締役会のほかグループ各社の代表取締役・事業部長が出席する経営会議等重要会議に出席するとともに、グループ各社の重要な意思決定及び業務の執行状況を把握するため取締役および使用人等からヒヤリング等を行っております。

当社の社外取締役は1名であります。社外取締役田中秀文は、管理及び経営の豊富な経験を通じ、幅広い見識により、経営の意思決定機能と業務執行を管理監督する機能を持つ取締役会に対し、経営への監視機能を強化しております。また、定期的に本社管理部門を通じ、内部監査・監査役・会計監査の状況報告を受け連携した体制を整えております。

コーポレート・ガバナンスにおいて、外部からの客観的、中立の経営監視機能が重要と考えており、社外監査役2名による監査および社外取締役1名により、外部からの経営監視機能が十分に機能する体制が整っております。

リスク管理体制の整備の状況

当社は、代表取締役を、当会社グループ全体に関するリスク管理体制の総括責任者とし、管理部がリスク管理規程・リスク管理体制の構築及び運用を進めております。また、グループ全体の長である取締役及び使用人は、各社に内在するリスクを把握、分析、評価した上で適切な対策を実施するとともに、定期的にリスク管理の状況を取締役会に報告しております。

役員報酬等

イ.役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる役 員の員数(名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	27,348	24,606			2,742	3
監査役 (社外監査役を除く。)	6,262	6,000			262	3
社外役員	6,675	7,200				3

(注) 1 取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。

2 取締役の報酬限度額は、昭和61年4月28日開催の第41期定時株主総会において月額20,000千円以内(ただし、使用人分給与は含まない。)と決議いただいております。

3 監査役の報酬限度額は、平成6年6月29日開催の第50期定時株主総会において月額3,000千円以内と決議いただいております。

ロ.役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

ハ.役員報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方針

当社の役員報酬の決定に際しては、当社が持続的な成長を図っていくために、業績拡大及び企業価値向上に対する報奨として有効に機能することを目指しております。また、報酬額の水準につきましては、同業他社及び同規模の企業と比較の上、当社の業績に見合った水準を設定し、業績等に対する各取締役の貢献度に基づき報酬の額を決定しております。

株式の保有状況

イ.保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

15銘柄 1,279,448千円

ロ.保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
前事業年度
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
㈱オリンピック	949,408	570,594	継続的な取引関係を維持するため取得後、継続保有
㈱チヨダ	148,200	386,950	継続的な取引関係を維持するため取得後、継続保有
㈱協和日成	147,000	106,869	継続的な取引関係を維持するため取得後、継続保有
カネ美食品㈱	23,232	78,175	継続的な取引関係を維持するため取得後、継続保有
千代田インテグレ㈱	17,160	40,857	継続的な取引関係を維持するため取得後、継続保有
フジ日本精糖㈱	60,000	33,480	継続的な取引関係を維持するため取得後、継続保有
㈱ナガホリ	63,000	13,734	継続的な取引関係を維持するため取得後、継続保有
㈱小林洋行	21,200	6,042	継続的な取引関係を維持するため取得後、継続保有
㈱セブン&アイ・ホールディングス	753	3,284	継続的な取引関係を維持するため取得後、継続保有
㈱平和堂	1,000	2,702	継続的な取引関係を維持するため取得後、継続保有
丸三証券㈱	1,157	1,062	継続的な取引関係を維持するため取得後、継続保有
㈱さいか屋	13,200	897	継続的な取引関係を維持するため取得後、継続保有

当事業年度
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
㈱オリンピック	949,408	529,769	継続的な取引関係を維持するため取得後、継続保有
㈱チヨダ	148,200	395,842	継続的な取引関係を維持するため取得後、継続保有
㈱協和日成	147,000	154,938	継続的な取引関係を維持するため取得後、継続保有
カネ美食品㈱	23,232	76,084	継続的な取引関係を維持するため取得後、継続保有
千代田インテグレ㈱	17,160	42,642	継続的な取引関係を維持するため取得後、継続保有
フジ日本精糖㈱	60,000	40,380	継続的な取引関係を維持するため取得後、継続保有
㈱ナガホリ	63,000	15,750	継続的な取引関係を維持するため取得後、継続保有
㈱小林洋行	21,200	5,936	継続的な取引関係を維持するため取得後、継続保有
㈱セブン&アイ・ホールディングス	896	4,089	継続的な取引関係を維持するため取得後、継続保有
㈱平和堂	1,000	2,573	継続的な取引関係を維持するため取得後、継続保有
丸三証券㈱	1,157	1,167	継続的な取引関係を維持するため取得後、継続保有
㈱さいか屋	1,320	607	継続的な取引関係を維持するため取得後、継続保有

ハ.保有目的が純投資目的である投資株式

該当する投資株式は保有しておりません。

取締役の定数

当社の取締役は10名以内とする旨を定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び累積投票によらない旨を定款に定めております。

取締役会で決議することができる株主総会決議事項

当社は、機動的な資本政策の遂行を目的として、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

また、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を目的として、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	24,000	-	26,000	-
連結子会社	-	-	-	-
計	24,000	-	26,000	-

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社の事業規模の観点から合理的監査日数を助案し、有限責任監査法人ト・マツに対する監査報酬額を決定しております。

第5【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。
また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、財務諸表を適正に作成できる体制を整備するため、会計監査人等が主催する研修会への参加並びに会計専門書の定期購読を行っております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,352,972	1,540,879
受取手形及び売掛金	575,546	621,679
商品及び製品	163,958	202,624
仕掛品	27,295	29,644
原材料	131,533	138,130
繰延税金資産	52,342	43,055
その他	59,806	66,946
貸倒引当金	1,011	643
流動資産合計	2,362,445	2,642,315
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	878,370	884,168
減価償却累計額	644,799	663,142
建物及び構築物(純額)	233,571	221,026
機械装置及び運搬具	752,251	800,199
減価償却累計額	637,636	685,018
機械装置及び運搬具(純額)	114,614	115,181
工具、器具及び備品	90,689	90,472
減価償却累計額	64,362	71,212
工具、器具及び備品(純額)	26,326	19,259
土地	193,576	197,256
リース資産	44,054	59,785
減価償却累計額	23,073	28,017
リース資産(純額)	20,981	31,767
有形固定資産合計	589,070	584,490
無形固定資産		
のれん	-	26,609
電話加入権	2,885	2,885
その他	1,558	12,727
無形固定資産合計	4,443	42,222
投資その他の資産		
投資有価証券	1,264,480	1,291,182
敷金及び保証金	726,351	724,453
繰延税金資産	2,401	5,489
その他	131,380	118,392
貸倒引当金	11,094	10,289
投資その他の資産合計	2,113,519	2,129,229
固定資産合計	2,707,033	2,755,942
資産合計	5,069,478	5,398,258

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	209,621	313,661
未払金	180,100	195,461
リース債務	8,092	12,256
未払法人税等	38,776	27,542
未払消費税等	35,116	60,496
ポイント引当金	49,130	51,082
その他	282,524	417,176
流動負債合計	803,362	1,077,676
固定負債		
リース債務	16,710	28,546
繰延税金負債	121,279	124,562
役員退職慰労引当金	95,779	93,520
退職給付に係る負債	581,131	595,099
預り保証金	12,018	12,210
資産除去債務	203,826	206,934
固定負債合計	1,030,745	1,060,872
負債合計	1,834,107	2,138,548
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,727,560	2,727,560
利益剰余金	480,061	499,394
自己株式	80,579	80,668
株主資本合計	3,127,042	3,146,286
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	108,327	113,423
その他の包括利益累計額合計	108,327	113,423
純資産合計	3,235,370	3,259,709
負債純資産合計	5,069,478	5,398,258

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
売上高		
製商品売上高	4,563,923	4,704,384
受託加工売上高	645,347	694,595
売上高合計	5,209,271	5,398,979
売上原価		
製商品売上原価	1,899,084	1,999,001
受託加工売上原価	483,169	531,904
売上原価合計	1 2,382,253	1 2,530,906
売上総利益	2,827,018	2,868,073
販売費及び一般管理費		
販売手数料	137,091	134,435
広告宣伝費	171,335	177,775
給料及び手当	972,149	984,628
退職給付費用	37,056	46,577
減価償却費	21,779	28,235
賃借料	447,539	470,782
その他	811,828	872,396
販売費及び一般管理費合計	2,598,779	2,714,832
営業利益	228,238	153,240
営業外収益		
受取利息	264	268
受取配当金	32,007	31,555
受取手数料	17,440	17,014
助成金収入	8,341	8,601
雑収入	5,566	4,944
営業外収益合計	63,620	62,383
営業外費用		
支払利息	434	577
雑損失	62	515
営業外費用合計	496	1,093
経常利益	291,361	214,531
特別損失		
減損損失	2 1,110	2 55,514
ゴルフ会員権評価損	-	14,425
特別損失合計	1,110	69,939
税金等調整前当期純利益	290,251	144,591
法人税、住民税及び事業税	54,141	47,765
法人税等調整額	28,565	8,790
法人税等合計	82,706	38,974
当期純利益	207,544	105,616
親会社株主に帰属する当期純利益	207,544	105,616

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
当期純利益	207,544	105,616
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	41,237	5,095
その他の包括利益合計	41,237	5,095
包括利益	248,782	110,712
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	248,782	110,712

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,727,560	-	358,805	80,462	3,005,904
当期変動額					
剰余金の配当			86,287		86,287
親会社株主に帰属する当期純利益			207,544		207,544
自己株式の取得				117	117
自己株式の消却		0		0	-
利益剰余金から資本剰余金への振替		0	0		-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	121,255	117	121,139
当期末残高	2,727,560	-	480,061	80,579	3,127,042

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	67,089	67,089	3,072,994
当期変動額			
剰余金の配当			86,287
親会社株主に帰属する当期純利益			207,544
自己株式の取得			117
自己株式の消却			-
利益剰余金から資本剰余金への振替			-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	41,237	41,237	41,237
当期変動額合計	41,237	41,237	162,376
当期末残高	108,327	108,327	3,235,370

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,727,560	-	480,061	80,579	3,127,042
当期変動額					
剰余金の配当			86,284		86,284
親会社株主に帰属する当期純利益			105,616		105,616
自己株式の取得				88	88
自己株式の消却					-
利益剰余金から資本剰余金への振替			-		-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	19,332	88	19,243
当期末残高	2,727,560	-	499,394	80,668	3,146,286

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	108,327	108,327	3,235,370
当期変動額			
剰余金の配当			86,284
親会社株主に帰属する当期純利益			105,616
自己株式の取得			88
自己株式の消却			-
利益剰余金から資本剰余金への振替			-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	5,095	5,095	5,095
当期変動額合計	5,095	5,095	24,339
当期末残高	113,423	113,423	3,259,709

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	290,251	144,591
減価償却費	79,509	90,244
減損損失	1,110	55,514
ゴルフ会員権評価損	-	14,425
のれん償却額	-	7,622
貸倒引当金の増減額(は減少)	40	1,171
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	15,264	13,967
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	6,300	2,259
受取利息及び受取配当金	32,271	31,823
支払利息	434	577
売上債権の増減額(は増加)	17,319	45,328
たな卸資産の増減額(は増加)	19,323	44,426
仕入債務の増減額(は減少)	9,590	104,040
未払消費税等の増減額(は減少)	22,056	25,379
前受金の増減額(は減少)	4,007	58,453
預り金の増減額(は減少)	39,720	73,036
その他	14,396	15,068
小計	339,126	477,912
利息及び配当金の受取額	32,271	31,823
利息の支払額	434	577
法人税等の支払額	70,462	60,977
営業活動によるキャッシュ・フロー	300,501	448,181
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	94,067	95,179
無形固定資産の取得による支出	-	13,661
投資有価証券の取得による支出	1,040	1,100
事業譲受による支出	-	2 60,000
差入保証金及び敷金の預入による支出	6,977	5,722
差入保証金及び敷金の返還による収入	51,764	7,770
その他	736	2,141
投資活動によるキャッシュ・フロー	49,583	170,035
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	117	88
配当金の支払額	85,260	82,093
リース債務の返済による支出	7,031	8,056
財務活動によるキャッシュ・フロー	92,409	90,239
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	158,507	187,907
現金及び現金同等物の期首残高	1,194,464	1,352,972
現金及び現金同等物の期末残高	1 1,352,972	1 1,540,879

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 4社

主要な連結子会社名は、「第1 企業の概況 4. 関係会社の状況」に記載しているため、省略していません。

ファクトリー玉野(株)については、当連結会計年度において新たに設立したため、連結の範囲に含めております。なお、子会社はすべて連結されております。

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度に関する事項

すべての連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)によっております。

時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

たな卸資産

商品・・・・・・・・品番別個別法及びランク別総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

製品及び仕掛品・・・・総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

原材料・・・・・・・・最終仕入原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リ-ス資産を除く)

定率法によっております。ただし、平成10年4月1日以降に取得したの建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 8~47年

機械装置及び運搬具 2~10年

無形固定資産(リ-ス資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

リ-ス資産

所有権移転外ファイナンス・リ-ス取引に係るリ-ス資産

リ-ス期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、回収不能見込額を計上しております。

a 一般債権

貸倒実績率法によっております。

b 貸倒懸念債権及び破産更生債権等

個別に回収可能性を検討し回収不能見込額を計上しております。

ポイント引当金

将来のポイントカードの使用による費用発生に備えるため、使用実績率に基づき翌連結会計年度以降に利用されると見込まれるポイントに対し見積額を計上しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職による退職慰労金支給に備えるため、支給内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

当社及び連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、3年間の定額法により償却を行っております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(7) その他の連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

国際会計基準審議会(IASB)及び米国財務会計基準審議会(FASB)は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、平成26年5月に「顧客との契約から生じる収益」(IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606)を公表しており、IFRS第15号は平成30年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は平成29年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。

企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわせない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。

(2) 適用予定日

平成34年3月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であり、ます。

(表示方法の変更)

(連結キャッシュ・フロー計算書)

前連結会計年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた「前受金の増減額」及び「預り金の増減額」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた58,124千円は、「前受金の増減額」4,007千円、「預り金の増減額」39,720千円及び「その他」14,396千円として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

連結会計年度末日満期手形

連結会計年度末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。

なお、当連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が連結会計年度末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
受取手形	- 千円	2,758千円

(連結損益計算書関係)

1. 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
	50,292千円	54,544千円

2. 減損損失

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

用途	種類	場所
営業所	機械装置及び運搬具	東京都中央区

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として店舗及び営業所を基本単位としてグルーピングしております。ただし、将来の使用が見込まれない遊休資産は、個別の資産グループとしております。

営業所

営業活動から生ずる損益が継続してマイナスであり、また継続してマイナスとなる見込みである営業所について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(1,110千円、内訳：機械装置及び運搬具1,110千円)として特別損失に計上いたしました。なお、回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローに基づく評価額がマイナスであるため、回収可能価額は零として算定しております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

用途	種類	場所
店舗	建物及び構築物、工具、器具及び備品	東京都渋谷区他4件
営業所	機械装置及び運搬具、工具、器具及び備品、リース資産	北海道札幌市他1件
縫製工場	建物及び構築物、機械装置及び運搬具、工具、器具及び備品、ソフトウェア	福岡県飯塚市

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として店舗及び営業所を基本単位としてグルーピングしております。ただし、将来の使用が見込まれない遊休資産は、個別の資産グループとしております。

店舗

営業活動から生ずる損益が継続してマイナスであり、また継続してマイナスとなる見込みである店舗・営業所について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(20,426千円、内訳：建物及び構築物19,359千円、工具器具及び備品1,066千円)として特別損失に計上いたしました。なお、回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローに基づく評価額がマイナスであるため、回収可能価額は零として算定しております。

営業所

営業活動から生ずる損益が継続してマイナスであり、また継続してマイナスとなる見込みである店舗・営業所について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(6,021千円、内訳：機械装置及び運搬具861千円、工具器具及び備品75千円、リース資産5,084千円)として特別損失に計上いたしました。なお、回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローに基づく評価額がマイナスであるため、回収可能価額は零として算定しております。

縫製工場

営業活動から生ずる損益が継続してマイナスであり、また継続してマイナスとなる見込みである縫製工場について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（29,066千円、内訳：建物及び構築物6,947千円、機械装置及び運搬具20,694千円、工具器具及び備品542千円、ソフトウェア882千円）として特別損失に計上いたしました。なお、回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを7.7%で割り引いて、計算しております。

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	22,651千円	25,601千円
組替調整額	-	-
税効果調整前	22,651	25,601
税効果額	18,585	20,506
その他有価証券評価差額金	41,237	5,095
その他の包括利益合計	41,237	5,095

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首株式数(株)	当連結会計年度増加株式数(株)	当連結会計年度減少株式数(株)	当連結会計年度末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	18,044,715	-	16,240,244	1,804,471
合計	18,044,715	-	16,240,244	1,804,471
自己株式				
普通株式(注)	787,163	388	708,768	78,783
合計	787,163	388	708,768	78,783

(注)平成28年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

・自己株式

単元未満株式の買取による取得 388株(株式併合前357株、株式併合後31株)

減少数の内訳は、次のとおりであります。

・発行済株式

株式併合の減少 16,240,244株

・自己株式

株式併合による減少 708,768株

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	86,287	5	平成28年3月31日	平成28年6月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年6月28日 定時株主総会	普通株式	86,284	利益剰余金	50	平成29年3月31日	平成29年6月29日

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首株式数（株）	当連結会計年度増加株式数（株）	当連結会計年度減少株式数（株）	当連結会計年度末株式数（株）
発行済株式				
普通株式	1,804,471	-	-	1,804,471
合計	1,804,471	-	-	1,804,471
自己株式				
普通株式(注)	78,783	52	-	78,835
合計	78,783	52	-	78,835

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加52株は、単元未満株式の買増請求によるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年6月28日 定時株主総会	普通株式	86,284	50	平成29年3月31日	平成29年6月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成30年6月25日 定時株主総会	普通株式	86,281	利益剰余金	50	平成30年3月31日	平成30年6月26日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
現金及び預金勘定	1,352,972千円	1,540,879千円
現金及び現金同等物	1,352,972	1,540,879

2 当連結会計年度に事業の譲受けにより増加した資産の主な内訳は次のとおりであります。

流動資産	3,185千円
固定資産	20,350
資産合計	23,535

(リース取引関係)

(借主側)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

有形固定資産

受託縫製事業における設備(「工具、器具及び備品」)及び卸売事業における車両(「機械装置及び運搬具」)などがあります。

(2) リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
1年内	12,444	-
1年超	-	-
合計	12,444	-

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、営業活動によるキャッシュ・フローのほか、これまで蓄積してきた内部留保を財源に経営活動を行っており、原則として借入金に依存しておりません。

一時的な余資は流動性の高い金融資産で運用しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社グループの与信管理規程に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を把握する体制としております。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されていますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に把握された時価が取締役に報告されております。

敷金及び保証金は、主に店舗及び営業所の賃借に係るものであり、貸主の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては当社の与信管理規程に従い、貸主ごとの残高管理を行っております。

営業債務である買掛金及び未払金は3ヶ月以内の支払期日であります。これらは、流動性リスクに晒されておりますが、当該リスクに関しては、資金繰表を作成するなどの方法により実績管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価格のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含んでおりません。(注)2.参照)。

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
現金及び預金	1,352,972	1,352,972	-
受取手形及び売掛金	575,546		
貸倒引当金()	1,011		
	574,535	574,535	-
投資有価証券			
その他有価証券	1,254,812	1,254,812	-
敷金及び保証金	726,351	726,262	88
資産計	3,908,671	3,908,583	88
買掛金	209,621	209,621	-
未払金	180,100	180,100	-
未払法人税等	38,776	38,776	-
未払消費税等	35,116	35,116	-
負債計	463,615	463,615	-

()受取手形及び売掛金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
現金及び預金	1,540,879	1,540,879	-
受取手形及び売掛金	621,679		
貸倒引当金()	205		
	621,473	621,473	-
投資有価証券			
その他有価証券	1,281,514	1,281,514	-
敷金及び保証金	724,453	724,214	239
資産計	4,168,321	4,168,081	239
買掛金	313,661	313,661	-
未払金	195,461	195,461	-
未払法人税等	27,542	27,542	-
未払消費税等	60,496	60,496	-
負債計	597,161	597,161	-

()受取手形及び売掛金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

資 産

現金及び預金並びに 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

投資有価証券

これらの時価については取引所の時価によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

敷金及び保証金

これらの時価については、返還時期を見積もったうえ、将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標に基づいた利率で割り引いた現在価値により算定しております。

負 債

買掛金、 未払金、 未払法人税等及び 未払消費税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注) 2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
非上場株式	9,668	9,668

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「投資有価証券 其他有価証券」には含めておりません。

(注) 3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	1年以内(千円)	1年超 5年以内(千円)	5年超 10年以内(千円)	10年超(千円)
現金及び預金	1,312,016	-	-	-
受取手形及び売掛金	575,546	-	-	-
合計	1,887,563	-	-	-

当連結会計年度(平成30年3月31日)

	1年以内(千円)	1年超 5年以内(千円)	5年超 10年以内(千円)	10年超(千円)
現金及び預金	1,500,496	-	-	-
受取手形及び売掛金	621,679	-	-	-
合計	2,122,176	-	-	-

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	670,484	258,287	412,197
	その他	-	-	-
	小計	670,484	258,287	412,197
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	584,328	762,470	178,142
	その他	-	-	-
	小計	584,328	762,470	178,142
合計		1,254,812	1,020,757	234,055

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 9,668千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	751,745	274,988	476,756
	その他	-	-	-
	小計	751,745	274,988	476,756
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	529,769	746,869	217,099
	その他	-	-	-
	小計	529,769	746,869	217,099
合計		1,281,514	1,021,858	259,656

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 9,668千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自平成28年4月1日至平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成29年4月1日至平成30年3月31日)

該当事項はありません。

3. 減損処理を行ったその他有価証券

前連結会計年度(自平成28年4月1日至平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成29年4月1日至平成30年3月31日)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

退職給付制度については、確定給付型の制度として、退職金規程に基づく社内積立の退職一時金制度と確定給付企業年金制度を併用しております。一部の連結子会社では、中小企業退職金共済制度を採用しております。

2. 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	596,396千円	581,131千円
退職給付費用	50,894	60,384
退職給付の支払額	51,860	31,606
制度への拠出額	14,298	14,810
退職給付に係る負債の期末残高	581,131	595,099

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(平成29年3月31日)	(平成30年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	633,942千円	663,661千円
年金資産	211,498	224,544
	422,443	439,116
非積立型制度の退職給付債務	158,688	155,983
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	581,131	595,099
退職給付に係る負債	581,131	595,099
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	581,131	595,099

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 前連結会計年度 50,894千円 当連結会計年度 60,384千円

3. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度3,277千円、当連結会計年度3,631千円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
流動資産		
繰延税金資産		
商品評価損	33,699千円	36,697千円
未払事業税等	5,338	4,559
棚卸資産の未実現利益	-	1,883
資産調整勘定	-	2,233
ポイント引当金	16,702	17,306
繰越欠損金	23,493	7,955
その他	189	199
繰延税金資産小計	79,422	70,833
評価性引当額	26,321	27,778
繰延税金資産合計	53,101	43,055
繰延税金負債		
棚卸資産の未実現損失	758	-
繰延税金負債合計	758	-
繰延税金資産純額	52,342	43,055
固定資産		
繰延税金資産		
貸倒引当金	1,029	1,239
減損損失	5,325	10,693
退職給付に係る負債	36,699	43,673
役員退職慰労引当金	811	1,685
資産除去債務	20,907	21,386
繰越欠損金	91,541	88,836
その他	-	113
繰延税金資産小計	156,313	167,628
評価性引当額	151,952	160,034
繰延税金資産合計	4,361	7,593
繰延税金負債		
資産除去債務に対応する除去費用	1,959	1,494
その他有価証券評価差額金	-	609
繰延税金負債合計	1,959	2,103
繰延税金資産純額	2,401	5,489

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
固定負債		
繰延税金資産		
貸倒引当金	3,159	2,538
退職給付に係る負債	155,515	153,073
減損損失	14,360	23,418
役員退職慰労引当金	29,126	27,316
資産除去債務	48,038	47,732
投資有価証券評価損	40,979	40,633
資産調整勘定	-	7,443
繰越欠損金	178,126	180,992
ゴルフ会員権評価損	-	4,649
繰延税金資産小計	469,306	487,799
評価性引当額	459,640	462,165
繰延税金資産合計	9,666	25,633
繰延税金負債		
資産除去債務に対応する除去費用	5,218	5,041
その他有価証券評価差額金	125,727	145,154
繰延税金負債合計	130,946	150,195
繰延税金負債純額	121,279	124,562

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率 (調整)	30.9 (%)	30.9 (%)
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.3	0.8
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.6	1.3
評価性引当額の増減	6.3	8.0
住民税均等割等	3.2	6.3
のれん	-	7.3
のれん償却額	-	1.6
税率差異等	1.8	7.2
その他	0.8	4.8
税効果会計適用後の法人税等の負担率	28.5	27.0

(企業結合等関係)

取得による企業結合

(1) 企業結合の概要

結合当事企業の名称及びその事業の内容

イ. 事業譲受企業

名称：株式会社銀座山形屋

事業の内容：紳士服・婦人服等アパレル製品の商品企画・製造・販売及び靴・鞆・衣料雑貨品・服飾雑貨品・洋服生地等の販売を主な事業内容とする子会社の支配・管理

ロ. 事業譲渡企業

名称：株式会社野海

事業の内容：被服の縫製、加工及び販売

企業結合を行った主な理由

高級紳士コート製造に関する縫製技術を獲得することで、当社グループの製造事業の品質強化・生産拡大を図ることにあります。

企業結合日

平成29年8月1日

企業結合の法的形式

事業譲受

結合後企業の名称

ファクトリー玉野株式会社

取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として紳士コート縫製事業を譲り受けたためであります。

(2) 連結財務諸表に含まれる取得した事業の業績の期間

平成29年8月1日から平成30年3月31日まで

(3) 取得した事業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	60,000千円
取得原価		60,000千円

(4) 主要な取得関連費用の内容及び金額

弁護士・不動産鑑定士に対する報酬・手数料等 650千円

(5) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

発生したのれん

34,231千円

なお、のれんは、第2四半期連結会計期間末においては、取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算出された金額でありましたが、第4四半期連結会計期間に確定しております。

のれんは修正は生じておりません。

発生原因

主として今後の事業展開により期待される超過収益力であります。

償却方法及び償却期間

3年間にわたる均等償却

(6) 企業結合日に受け入れた資産の額及びその主な内容

流動資産	3,185千円
固定資産	20,350
資産合計	23,535

(7) 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

当連結会計年度における概算額の算定が困難であるため、記載しておりません。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

- 1 当該資産除去債務の概要
店舗及び事務所の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。
- 2 当該資産除去債務の金額の算定方法
使用見込期間を、取得から10年～15年と見積り、割引率は 0.047%～2.292%を使用して資産除去債務の金額を算定しております。
- 3 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月 31日)
期首残高	191,248 千円	203,826 千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	12,349	2,868
時の経過による調整額	227	239
資産除去債務の履行による減少額	-	-
期末残高	203,826	206,934

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、持株会社としてグループ全体の戦略を担い、子会社4社は「小売事業」「卸売事業」「受託縫製事業」を展開しております。

「小売事業」は、主に店舗等においてオーダー紳士・婦人服、カジュアル洋品の小売販売を行っております。「卸売事業」は、主にオーダー紳士・婦人服の卸販売を行っております。「受託縫製事業」は、主に紳士・婦人服の受託縫製加工・販売を行っております。

平成29年7月20日にファクトリー玉野株式会社を設立し、譲り受けた紳士コート縫製事業を同社にて行うことに伴い、当社グループ各事業の進展状況に照らし営業形態等を勘案の上、当連結会計年度より報告セグメントの区分方法の見直しを行いました。

その結果、ファクトリー玉野株式会社は「受託縫製事業」セグメントに含め、従来の「受託縫製事業」から「bref販売」を「小売事業」へ、「卸売事業」から「地方受託販売」を「受託縫製事業」へそれぞれ変更しております。

なお、前連結会計年度のセグメント情報は、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同様であります。報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部売上高は、市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	小売事業	卸売事業	受託縫製事業	
売上高				
外部顧客への売上高	2,837,539	1,446,230	915,175	5,198,946
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	1,975,780	1,975,780
計	2,837,539	1,446,230	2,890,955	7,174,726
セグメント利益	112,123	67,810	85,274	265,208
セグメント資産	1,025,320	597,196	756,657	2,379,175
その他の項目				
減価償却費	8,648	4,368	49,759	62,776
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	80,111	7,875	48,404	136,392

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント			合計
	小売事業	卸売事業	受託縫製事業	
売上高				
外部顧客への売上高	2,988,718	1,462,002	938,986	5,389,707
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	2,039,951	2,039,951
計	2,988,718	1,462,002	2,978,938	7,429,658
セグメント利益	167,106	26,337	18,563	212,007
セグメント資産	1,137,681	631,291	1,028,652	2,797,624
その他の項目				
減価償却費	13,987	5,294	56,035	75,317
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	12,464	21,040	93,513	127,019

4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

売上高	前連結会計年度 （自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）	当連結会計年度 （自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）
報告セグメント計	7,174,726	7,429,658
セグメント間取引消去	1,975,780	2,039,951
全社収益	10,324	9,272
連結財務諸表の売上高	5,209,271	5,398,979

（単位：千円）

利益	前連結会計年度 （自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）	当連結会計年度 （自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）
報告セグメント計	265,208	212,007
棚卸資産の調整額	2,178	1,680
その他の調整額	5,205	3,423
全社収益(注1.)	275,869	292,757
全社費用(注2.)	309,811	346,419
連結財務諸表の営業利益	228,238	153,240

（注1.）全社収益は、主に当社におけるグループ会社からの経営指導料、不動産賃貸収入等であります。

（注2.）全社費用は、主に当社におけるグループ管理に係る費用であります。

(単位：千円)

資産	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
報告セグメント計	2,379,175	2,797,624
その他の調整額	616,444	913,696
本社管理部門に対する債権の相殺消去	568,700	512,804
全社資産 (注)	3,875,448	4,027,135
連結財務諸表の資産合計	5,069,478	5,398,258

(注) 全社資産は、当社での余資運用資金(現金及び預金)、長期投資資金(投資有価証券)及び管理部門に係る資産等です。

(単位：千円)

その他の項目	報告セグメント計		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度
減価償却費	62,776	75,317	16,733	14,927	79,509	90,244
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額	136,392	127,019	41,419	59,918	177,811	186,937

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	オーダー 紳士服	オーダー 婦人服	既製洋品	その他	合計
外部顧客への売上高	4,162,999	436,640	531,498	78,134	5,209,271

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手がないため、記載はありません。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	オーダー 紳士服	オーダー 婦人服	既製洋品	その他	合計
外部顧客への売上高	4,332,138	439,406	544,217	83,219	5,398,979

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

(単位：千円)

	小売事業	卸売事業	受託縫製事業	全社・消去	合計
減損損失	-	-	1,110	-	1,110

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

(単位：千円)

	小売事業	卸売事業	受託縫製事業	全社・消去	合計
減損損失	20,426	5,160	29,927	-	55,514

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

（単位：千円）

	小売事業	卸売事業	受託縫製事業	全社・消去	合計
当期償却額	-	-	-	7,622	7,622
当期末残高	-	-	-	26,609	26,609

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を自己の計算において所有している会社	山形産業株式会社 (注)3.	東京都中央区	48,000	不動産の売買及び賃貸	(被所有) 直接0.06	不動産の賃借	賃借料支払	48,178	敷金及び保証金	224,996

(注) 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等

賃借料については、市場価格を勘案して一般的取引条件と同様に決定しております。

2. 取引金額には消費税等は含んでおりません。

3. 当社役員山形政弘及びその近親者が議決権の100%を直接保有しております。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を自己の計算において所有している会社	山形産業株式会社 (注)3.	東京都中央区	48,000	不動産の売買及び賃貸	(被所有) 直接0.06	不動産の賃借	賃借料支払	48,178	敷金及び保証金	224,996
役員及びその近親者が議決権の過半数を自己の計算において所有している会社	東京メンズアパレル協同組合	東京都中央区	53,200	不動産の売買及び賃貸	(被所有) 直接1.29	不動産の賃借	賃借料支払	340	敷金及び保証金	5,000

(注) 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等

賃借料については、市場価格を勘案して一般的取引条件と同様に決定しております。

2. 取引金額には消費税等は含んでおりません。

3. 当社役員山形政弘及びその近親者が議決権の100%を直接保有しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
1株当たり純資産額	1,874円83銭	1,888円99銭
1株当たり当期純利益金額	120円27銭	61円20銭

- (注) 1. 潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 平成28年10月 1日付で普通株式10株につき 1株の割合で株式併合を実施しております。前連結会計年度の期首に該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。
3. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益金額(千円)	207,544	105,616
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益金額(千円)	207,544	105,616
普通株式の期中平均株式数(千株)	1,725	1,725

4. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (平成30年 3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	3,235,370	3,259,709
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	-	-
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	3,235,370	3,259,709
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(千株)	1,725	1,725

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
1年以内に返済予定のリース債務	8,092	12,256	1.5	-
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	16,710	28,546	1.8	平成31年～35年
合計	24,802	40,802	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末リース債務残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
リース債務	9,513	8,559	6,855	3,618

【資産除去債務明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)
賃貸借契約に基づく原状回復義務	203,826	3,107	-	206,934

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	1,376,665	2,373,299	4,067,411	5,398,979
税金等調整前四半期(当期)純利益金額又は税金等調整前四半期純損失金額()(千円)	123,661	59,429	192,483	144,591
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額()(千円)	94,455	69,682	148,766	105,616
1株当たり四半期(当期)純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()(円)	55.32	40.38	86.21	61.20

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()(円)	55.32	95.70	126.59	25.01

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,184,573	1,332,022
売掛金	10,638	734
前払費用	3,951	4,466
未収入金	28,647	37,184
繰延税金資産	2,926	4,845
その他	21	3,451
流動資産合計	1,230,758	1,382,706
固定資産		
有形固定資産		
建物	103,480	117,300
構築物	3,020	2,812
車両運搬具	3,053	2,036
工具、器具及び備品	7,560	5,704
土地	358,242	361,922
有形固定資産合計	475,357	489,777
無形固定資産		
ソフトウェア	633	396
のれん	-	26,609
電話加入権	1,173	1,173
無形固定資産合計	1,807	28,179
投資その他の資産		
投資有価証券	1,254,316	1,279,448
関係会社株式	-	10,000
出資金	3,150	3,150
関係会社長期貸付金	2,701,000	2,496,000
敷金及び保証金	265,225	270,225
保険積立金	82,270	84,512
その他	31,385	16,960
貸倒引当金	2,169,825	2,033,825
投資その他の資産合計	2,167,524	2,126,471
固定資産合計	2,644,689	2,644,429
資産合計	3,875,448	4,027,135

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
負債の部		
流動負債		
未払金	5,578	42,208
未払費用	11,039	11,329
未払法人税等	20,247	17,470
未払消費税等	1,823	1,473
預り金	2,113	6,386
関係会社預り金	204,319	251,503
流動負債合計	245,122	330,372
固定負債		
繰延税金負債	123,723	138,072
退職給付引当金	195,626	199,627
役員退職慰労引当金	79,837	77,356
資産除去債務	3,953	6,855
固定負債合計	403,140	421,912
負債合計	648,263	752,285
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,727,560	2,727,560
利益剰余金		
利益準備金	13,806	22,435
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	461,728	496,497
利益剰余金合計	475,535	518,932
自己株式	80,579	80,668
株主資本合計	3,122,516	3,165,825
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	104,668	109,024
評価・換算差額等合計	104,668	109,024
純資産合計	3,227,184	3,274,850
負債純資産合計	3,875,448	4,027,135

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
売上高	1 275,869	1 292,757
売上原価	2, 3 182,251	2, 3 208,389
売上総利益	93,617	84,367
販売費及び一般管理費	4 127,560	4 138,047
営業損失()	33,942	53,680
営業外収益		
受取利息及び配当金	1 60,551	1 57,479
貸倒引当金戻入額	88,000	136,000
その他	3,010	2,243
営業外収益合計	151,562	195,723
経常利益	117,619	142,043
特別損失		
ゴルフ会員権評価損	-	14,425
特別損失合計	-	14,425
税引前当期純利益	117,619	127,617
法人税、住民税及び事業税	249	3,387
法人税等調整額	6,781	5,451
法人税等合計	7,030	2,063
当期純利益	110,588	129,681

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金	利益剰余金			自己株式	株主資本合計
			利益準備金	その他利益剰余金	利益剰余金合計		
				繰越利益剰余金			
当期首残高	2,727,560	-	5,178	446,057	451,235	80,462	3,098,333
当期変動額							
剰余金の配当			8,628	94,916	86,287		86,287
当期純利益				110,588	110,588		110,588
自己株式の取得						117	117
自己株式の消却		0				0	-
利益剰余金から資本剰余金への振替		0		0	0		-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）							
当期変動額合計	-	-	8,628	15,671	24,300	117	24,183
当期末残高	2,727,560	-	13,806	461,728	475,535	80,579	3,122,516

	評価・換算差額等	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	
当期首残高	62,587	3,160,920
当期変動額		
剰余金の配当		86,287
当期純利益		110,588
自己株式の取得		117
自己株式の消却		-
利益剰余金から資本剰余金への振替		-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	42,080	42,080
当期変動額合計	42,080	66,264
当期末残高	104,668	3,227,184

当事業年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金	利益剰余金			自己株式	株主資本合計
			利益準備金	その他利益剰余金	利益剰余金合計		
				繰越利益剰余金			
当期首残高	2,727,560	-	13,806	461,728	475,535	80,579	3,122,516
当期変動額							
剰余金の配当			8,628	94,912	86,284		86,284
当期純利益				129,681	129,681		129,681
自己株式の取得						88	88
自己株式の消却							
利益剰余金から資本剰余金への振替							
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）							-
当期変動額合計	-	-	8,628	34,769	43,397	88	43,308
当期末残高	2,727,560	-	22,435	496,497	518,932	80,668	3,165,825

	評価・換算差額等	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	
当期首残高	104,668	3,227,184
当期変動額		
剰余金の配当		86,284
当期純利益		129,681
自己株式の取得		88
自己株式の消却		
利益剰余金から資本剰余金への振替		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	4,356	4,356
当期変動額合計	4,356	47,665
当期末残高	109,024	3,274,850

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 関係会社株式

移動平均法による原価法によっております。

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)によっております。

時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1)有形固定資産(リ-ス資産を除く)

定率法によっております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 8年~47年

(2)無形固定資産(リ-ス資産を除く)

定額法によっております。

のれんについては3年間で均等償却しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3)リ-ス資産

所有権移転外ファイナンス・リ-ス取引に係るリ-ス資産

リ-ス期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

3. 引当金の計上基準

(1)貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、回収不能見込額を計上しております。

一般債権

貸倒実績率法によっております。

貸倒懸念債権及び破産更生債権等

個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2)退職給付引当金

当社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(3)役員退職慰労引当金

役員の退職による退職慰労金支給に備えるため、支給内規に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。

4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1)消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(2)連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

(貸借対照表関係)

関係会社に対する金銭債権及び金銭債務(区分表示したものを除く)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
短期金銭債権	37,525千円	40,629千円
短期金銭債務	101	18,559

(損益計算書関係)

1. 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
営業取引による取引高		
売上高	265,544千円	283,485千円
営業取引以外の取引による		
取引高	28,462	25,896

2. 役務原価の内訳は下記のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
人件費	147,944千円	150,400千円
その他	19,095	17,679
計	167,040	168,079

3. 賃貸原価の内訳は下記のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
減価償却費	5,797千円	7,178千円
その他	9,413	30,580
計	15,211	37,759

4. 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度0.2%、当事業年度0.8%、一般管理費に属する費用の割合は前事業年度99.8%、当事業年度99.2%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は下記のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
減価償却費	5,729千円	11,948千円
支払手数料	48,735	41,872
租税公課	13,306	15,369

(有価証券関係)

子会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式10,000千円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式-千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
	千円	千円
流動資産		
繰延税金資産		
未払事業税等	2,133	2,407
資産調整勘定	-	2,233
未払固定資産取得税	189	205
繰越欠損金	603	-
繰延税金資産合計	2,926	4,845
固定負債		
繰延税金資産		
貸倒引当金	664,400	622,757
投資有価証券評価損	40,633	40,633
減損損失	1,011	999
資産調整勘定	-	7,443
関係会社株式評価損	55,728	55,728
退職給付引当金	59,900	61,125
役員退職慰労引当金	24,454	23,686
ゴルフ会員権評価損	-	4,417
資産除去債務	1,210	1,220
繰越欠損金	1,887	3,724
繰延税金資産小計	849,227	821,736
評価性引当額	848,134	814,084
繰延税金資産合計	1,092	7,652
繰延税金負債		
資産除去債務に対する除去費用	1,024	1,818
その他有価証券評価差額金	123,791	143,906
繰延税金負債合計	124,816	145,725
繰延税金負債純額	123,723	138,072

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
	30.9 (%)	30.9 (%)
法定実効税率		
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.5	0.7
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	1.6	1.5
評価性引当額の増減	24.3	26.7
均等割	1.2	1.0
のれん	-	8.3
のれん償却額	-	1.8
税率差異等	0.9	-
その他	0.2	0.5
税効果会計適用後の法人税等の負担率	6.0	1.6

(企業結合等関係)

取得による企業結合

連結財務諸表「注記事項(企業結合等関係)」に記載しているため、注記を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形 固定 資産	建物	103,480	23,375	1,540	8,014	117,300	519,615
	構築物	3,020	-	-	207	2,812	29,342
	機械及び装置	-	4,890	4,890	-	-	-
	車両運搬具	3,053	-	-	1,016	2,036	6,482
	工具、器具及び備品	7,560	412	240	2,027	5,704	23,167
	土地	358,242	3,680	-	-	361,922	-
	計	475,357	32,357	6,670	11,266	489,777	578,608
無形 固定 資産	ソフトウェア	633	-	-	237	396	-
	のれん	-	34,231	-	7,622	26,609	-
	電話加入権	1,173	-	-	-	1,173	-
	計	1,807	34,231	-	7,859	28,179	-

(注)1. 「建物」の「当期増加額」は福岡工場の縫製設備用社屋増設によるものであります。

(注)2. 「のれん」の「当期増加額」は事業譲受により発生したものであります。

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	2,169,825	-	136,000	2,033,825
退職給付引当金	195,626	10,768	6,767	199,627
役員退職慰労引当金	79,837	2,479	4,960	77,356

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月下旬
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告としております。ただし事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載しております。 公告掲載URL http://www.ginyama.co.jp
株主に対する特典	毎年3月31日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載された所有株式数が100株以上の株主様を進呈対象とする。 株主20%割引券 進呈枚数 100株以上 お一人様 年間2枚 300株以上 お一人様 年間5枚 割引率 店頭表示価格の20% (株主お買物券との併用は可、他の優待割引券との併用はできません) 対象商品 特別提供品および送料、修理等を除く自社商品 取扱い有効期間 7月1日～翌年6月30日 株主5,000円お買物券 進呈枚数 100株以上 お一人様 年間1枚 対象商品 特別提供品および送料、修理等を除く自社商品 (1回のお買物につき、本券を1枚ご利用できます。なお、差額の返金は出来ません) 取扱い店舗 銀座山形屋グループ店舗および営業所の店頭でのみご利用いただけます。(一部店舗を除く) 取扱い有効期間 7月1日～翌年3月31日

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第73期）（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）平成29年6月29日 関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成29年6月29日 関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第74期第1四半期）（自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日）平成29年8月10日 関東財務局長に提出

（第74期第2四半期）（自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日）平成29年11月14日 関東財務局長に提出

（第74期第3四半期）（自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日）平成30年2月14日 関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成29年6月29日 関東財務局長に提出

金融商品取引法第24条の5条第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年 6月25日

株式会社銀座山形屋

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	伊藤 治郎	印
--------------------	-------	-------	---

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	加藤 克彦	印
--------------------	-------	-------	---

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社銀座山形屋の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社銀座山形屋及び連結子会社の平成30年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社銀座山形屋の平成30年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社銀座山形屋が平成30年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1 . 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 . X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成30年6月25日

株式会社銀座山形屋

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤 治郎 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 加藤 克彦 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社銀座山形屋の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第74期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社銀座山形屋の平成30年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。